

平成26年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表（最終評価）

本年度の重点目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切に作る心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る

③ 進路指導の充実

ア 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる
イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する
ウ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える。
エ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る
イ 学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する
ウ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る エ 教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑨ グローバル人材の育成

ア 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑩ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する
ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

⑪ 教職員の資質向上

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

| 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | | 評価 | | | 次年度への課題と今後の改善方策 | | | | | |
|----------------------|--|---|---|----|---------------|---|-----------------------|---|---|---|---|
| | 評価指標 | 人権教育に関するアンケート | 評価指標による達成度 | 評定 | 総合評価 | | | | | | |
| ①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する | ① 人権に配慮した教育活動ができている。 生徒 85%以上 保護者 85%以上 教員 90%以上 | ① 人権に配慮した教育活動 生徒 81.4% 保護者 89.1% 教員 100.0% | B A A | A | (評定) A | 人権啓発行事や人権H 活動、ボランティアによる活 動、中高生の学び意識 の向上を図ることで学 校内外での人権委員会 の活動を生徒と協働 させ、生徒による啓 発活動を活発化させ たい。 | | | | | |
| | | | | | | | ② 生徒の人権意識の向上度 70%以上 | ② 生徒の人権意識の向上 75.4% | A | A | 学校関係者の意見 ・学校側の取り組みは評 価できる。 ・最近ではネットでの人権 問題等もあるので教育 してほしい。 ・特別支援学校との交流 は大変意義があると思 うので、来年度の実施 を望みたい。 ・人権に配慮していない と回答した20%の生徒 の調査が必要。 ・生徒と教員の意識の違 いを考察すると見えて くるものがあるのでは ないかと思う。 ・人権に配慮した教育は 常時必要だと思う。 ・目標に対する達成度が 高いのですばらしい。 ・充実した人権教育がで きている。 |
| | | | | | | | ③-1 「人権週間」の回数 年間4回を設定 | ③-1 4回実施 | A | | |
| ②自他を大切にする心や態度を育成する | ② 生徒の人権意識の向上度 70%以上 | ② 生徒の人権意識の向上 75.4% | A | A | A | 学校関係者の意見 ・学校側の取り組みは評 価できる。 ・最近ではネットでの人権 問題等もあるので教育 してほしい。 ・特別支援学校との交流 は大変意義があると思 うので、来年度の実施 を望みたい。 ・人権に配慮していない と回答した20%の生徒 の調査が必要。 ・生徒と教員の意識の違 いを考察すると見えて くるものがあるのでは ないかと思う。 ・人権に配慮した教育は 常時必要だと思う。 ・目標に対する達成度が 高いのですばらしい。 ・充実した人権教育がで きている。 | | | | | |
| ③家庭への啓発活動を推進する | ③-1 「人権委員会、Know サークルによる啓発資料掲示 年4回以上 | ③ 3回実施 | B | B | | | | | | | |
| | ③-1 「人権教育展」の回数 年間3回開催 | ③-1 3回開催 | A | A | A | 学校関係者の意見 ・学校側の取り組みは評 価できる。 ・最近ではネットでの人権 問題等もあるので教育 してほしい。 ・特別支援学校との交流 は大変意義があると思 うので、来年度の実施 を望みたい。 ・人権に配慮していない と回答した20%の生徒 の調査が必要。 ・生徒と教員の意識の違 いを考察すると見えて くるものがあるのでは ないかと思う。 ・人権に配慮した教育は 常時必要だと思う。 ・目標に対する達成度が 高いのですばらしい。 ・充実した人権教育がで きている。 | | | | | |
| | ③-2 校誌の人権コーナーを充実 | ③-2 生徒の活動・作品を掲載 | A | A | | | | | | | |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (所見) 人権HR事前検討会では、各HRの現状について協議し、各HRの課題を踏まえた指導方法を話し合い、授業に臨んだ。 職員研修会は、「セクシュアルマイノリティの問題」についての班別討議、「災害と人権」をテーマとした講義を計画し、実施した。 特別支援学校との交流は、今年度は実施できなかった。来年度からの実施に向けて現在調整中である。誰もが参加できる社会づくりに向け、互いの生徒が交流し、有意義な出会い・学びの場となるよう、特活課と協力していきたい。 人権啓発作品では、人権委員をはじめ全校生徒の協力をめぐる作品を校内に掲示できた。また、本年は人権に関する標語、ポスター、作詞作曲でそれぞれ知事賞他、校外表彰を受けた。 | | | | | 学校関係者の意見 ・学校側の取り組みは評 価できる。 ・最近ではネットでの人権 問題等もあるので教育 してほしい。 ・特別支援学校との交流 は大変意義があると思 うので、来年度の実施 を望みたい。 ・人権に配慮していない と回答した20%の生徒 の調査が必要。 ・生徒と教員の意識の違 いを考察すると見えて くるものがあるのでは ないかと思う。 ・人権に配慮した教育は 常時必要だと思う。 ・目標に対する達成度が 高いのですばらしい。 ・充実した人権教育がで きている。 | | | |
| | ①-1 ・年間4回「人権週間」を設定する。 ・ホームルーム活動の活性化を図るため城東人権ゼミを充実させる。 ・人権啓発行事（コンサート・映画・講演会等）の実施 | ①-1 ・教材の準備やHRの実態に則した授業展開に関して、事前検討会を実施した。 ・11月に人権講演会・人権劇鑑賞会を実施した。 | | | | | | | | | |
| | ①-2 人権意識高揚のための職員研修会を年間で2回実施する。 | ①-2 7月と12月に実施した。 テーマ「セクシュアルマイノリティ」「災害と人権」 | | | | | | | | | |
| | ② ・人権標語の募集、展示 ・特別支援学校との交流 ・校内に人権啓発に関するパネルを固定し、人権委員会やKnow サークルの活動として、掲示物の作成に取り組む。(年間4回以上) ・自主活動の場として、「中・高生による人権交流事業」に積極的に参加する。 | ② ・標語や啓発作品を全校生徒から募集し人権展で展示。 ・啓発作品（標語ポスター、書道作品等）の掲示を2、3学期に3回実施した。 ・Knowサークル部長が「中・高生による人権交流集会(12月)」の会長として活躍。中部ブロックの活動では中心的な役割を果たした。 | | | | | | | | | |
| | ③-1 PTA総会・城東祭（文化祭）や「とくしま教育の日」に「人権教育展」をそれぞれ開催する。 | ③-1 ・5月、9月、11月に実施。 | | | | | | | | | |
| | ③-2 校誌の人権コーナーを充実し、保護者への啓発活動を確実なものとする。 | ③-2 ・校誌の人権コーナーに、生徒の人権作文、自主活動(Knowサークル)の取り組み等を啓発資料として掲載。 | | | | | | | | | |

2 学習指導の充実

| 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | | 評価 | | | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|--|-------------|--|---|-------------|------|--|
| | 評価指標 | 授業に関するアンケート（生徒） | 評価指標による達成度 | 評定 | 総合評価 | |
| ① 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る ② 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る ③ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る | ① | 授業の工夫改善度 各教科 75%以上 学習に対する動機付け 75%以上 学習に対する意欲度 75%以上 | ① 工夫改善 75%以上 8教科 (平均79.6%) 動機づけ 83.4% 意欲度(興味関心をもてる) 75%以上 4教科 (平均71.3%) | B A B | B | 学習意欲を引き出すと、授業個々の成果を目標を達成する。また、予習・復習等による学習時間の増加など、学習意欲が向上した点に大きな課題と考える。主体的な学習ができていない生徒が増えていると、全国的に言われる中で、引き続き地道な取り組みを続けると共に、新たな方策を考へることも検討すべきかもしれない。また、新しい教育課程が、1年目から2年目までの間に、問題点を洗い出し、改善を図る。また、教育の動向にも注視しながら、適切な実施に努めなければならない。 |
| | ② | 予習への取り組み度 50%以上 復習への取り組み度 50%以上 | ② 予習への取組度 42.7% 復習への取組度 60.2% | B A | | |
| | ③ | 進路希望にあったコース(教科・科目)の満足度 80%以上 | ③ 生徒コース満足度 89.0% 保護者満足度 90.1% | A A | | |
| | ① | 研究授業参加回数 各教員年2回 授業公開 年3回 | ① 延べ60回、各教員年2回は実施できず年3回実施 | B A | | |
| | ② | 生徒の学習時間(1日あたり) 30分未満の生徒の割合 1%以下 3時間を超える生徒の割合 50%以上 1日あたりの平均学習時間 3時間以上 | ② (4~12月) 1年 0.3% 2年 1.6% 1年 41.8% 2年 43.4% 1年 2.8時間 2年 2.9時間 | B B | | |
| | ③ | 教育課程検討委員会開催回数 年3回 | ③ 教育課程検討委員会2回実施。 | B | | |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (所見) 評価指標による達成度によると、授業の工夫改善度と学習に対する動機づけは、それぞれ目標を達成したが、学習に対する意欲度が達成できていない。また、授業の予習への取り組み度は今年度も指標を達成するにいたっていない。生徒の家庭学習時間も、若干よい数値となっているが、指標を達成できなかった。活動計画については、公開授業、家庭学習時間調査、授業時数の確保等、概ね順調に実施されており、良い成果をあげている。一方、教科研究会、シラバスの作成等、実施の在り方に改善の余地がある項目がある。 | | | 学校関係者の意見 ・家庭学習の意識づけをお願いしたい。 ・シラバスは良い。 ・理科の取り組みに力を入れてほしい。先生方に気軽に質問できる環境であってほしい。 ・予習・復習については学習意欲と関連しているのではないかと思う。 ・シラバス公開の目的は明確か。生徒の理解・動機づけにつながっているか。教員の相互観察等の研修は重要。 ・学習指導も細やかに見てくださっている。 |
| | ① | ・教科研究会を定期的実施し、授業力の向上・指導案の研究をする。 ・シラバスの改訂を行う。 ・研究授業、公開授業等で他の教員の授業を参観し授業力の向上を図る。 | ① ・シラバスを作成し、ホームページに掲載。 ・公開授業3回で相互参観を実施。 | | | |
| | ② | ・第1学年で英数国の学習ガイダンスを4月に特設授業の中で実施する。 ・好ましい学習態度を理解させる。 ・予習・復習、授業の受け方指導。 ・家庭学習時間調査を毎日実施する。 ・週末課題、週末テストを実施し、家庭学習の習慣化を徹底する。 ・学年団による学習指導、生活指導の充実に努める。 ・基礎学力養成講座、再テストの実施。 | ② ・英数国理社の学習ガイダンスを4/11、4/14に実施。 ・予習中心の学習スタイルを指導する。 ・家庭学習調査を毎日実施。 ・各教科で課題等を実施する。 ・サクセス週間で実施。 ・基礎学力養成講座8月18、19日に実施。 ③ ・定期考査最終日に授業を実施した。 ・平成27年度教育課程編成終了。 | | | |
| | ③ | ・学校行事の精選、定期考査の工夫を行い、授業時数を確保する。 ・教育課程検討委員会において、教育課程やコース制の在り方等を検討する。 | | | | |

3 進路指導の充実

| 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | | 評価 | | | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|--|---|--|--|----|-----------|--|
| | 評価指標 | 進路指導に関するアンケート | 評価指標による達成度 | 評定 | 総合評価 | |
| ① 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる | ② 城東ゼミ（補習）の有用度 | 70%以上 | ② 有用度 生徒 71.6% | A | （評定） A | オープンキャンパスの他に、SGHにおいて大阪大学でのグローバルに参加しているが、さらに深い連携を進めたい。企業研修の企業についても常に検討を加え、より効果の高い研修先の開拓に努めたい。難関大学、歯学部、薬学部、進路希望者説明会、昨今後、生徒の進路希望や学力の実態に合わせて進路指導を適切に行なう。また、来年度より新課程全面実施となるので、進度や指導方法、入試への対応等をしっかりと情報収集し、研究しない。 |
| | ③ 進路情報の学校の提供度 | 80%以上 | ③ 提供度 生徒 87.7% 保護者 87.6% | A | | |
| ② 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる | ①-1 大学見学・企業見学の回数 | 各1回以上 | ①-1 8/7・8、9/19に実施した。 | A | A | |
| ③ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う | ①-2 大学等授業体験の実施回数 | 1回以上 | ①-2 10/22～24に実施した。 | A | | |
| | ①-3 職業ガイダンスの回数 | 1回以上 | ①-3 10/23に実施した。 | A | | |
| | ①-4 省庁・国際機関での研修 | 各1回以上 | ①-4 FAO、WHO神戸、JICAで研修。 | A | | |
| | ②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数 | 90講座以上 | ②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数 95講座 | A | | |
| | ②-2 国公立大学合格者の割合 | 60%以上 | ②-2 60.22%（192名） | A | | |
| | ②-3 難関大学（東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、医学部・歯学部・薬学部など）合格者 | 40名以上 | ②-3 現役32名、既卒8名（40名） | A | | |
| | ②-4 校外模試偏差値70以上 | 30名以上 | ②-4 1年31名 2年38名 1年124名 2年126名 | A | | |
| | ②-5 課題研究発表会の回数 | 1回以上 | ②-5 2/13に実施。 | A | | |
| | ②-6 課題研究コンクール入賞 | 1班以上 | ②-6 応募したが、入賞には至らなかった。 | B | | |
| | ②-7 学力テストの講評の配布回数 | 11回以上 | ②-7 学力テストの講評 11回配布 | A | | |
| | ③ 進路説明会回数 | 年間3回実施 （各学年1回以上） | ③ 進路説明会回数 4回実施。 | A | | |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | （所見） 大学のオープンキャンパス参加や企業研修、大学体験授業等は、計画通り実施することができた。国際機関での研修も実施することができた。課題研究では、集会ごとに応募を督促したが、12月の1次発表会に対し、コンクール等は6月～9月締切のため、応募の間に合わなかった。2年次の研究を3年次に応募する方向を模索したい。進路指導については、3年生への指導は計画通り実施できた。1、2年生においても進学検討会を各3回実施し、教員間やクラス間で情報を共有することができた。難関大学、歯学部、薬学部進学希望者説明会を、本年度は1・2年で外部の講師をお願いして実施することができ、有意義であった。 | | | |
| | ①-1 京都大学見学の実施。企業研修の実施。オープンキャンパスへの参加の推奨。 | ①-1 8/7・8に実施 134名参加。企業研修は317名参加。 | | | | |
| | ①-2 第2学年での大学等体験授業の実施。 | ①-2 3日間で98名が受講した。 | | | | |
| | ①-3 第1学年での職業ガイダンスの実施。 | ①-3 10/23に実施した。 | | | | |
| | ①-4 外務省・文科省等の研修の実施。 | ①-4 FAO、WHO神戸、JICAで研修。 | | | | |
| | ②-1 補習、模擬試験等を実施。 | ②-1 毎週4講座（3年生） 2講座（2年生） 2講座（1年生） | | | | |
| | ②-2 進路検討会を第3学年で4回実施。 | ②-2 3年生 4回 | | | | |
| | ②-3 難関大対象模試を各学年2回以上実施。 | ②-3 各学年3回 | | | | |
| | ②-4 模試分析会を第1、2学年で3回実施する。 | ②-4 1、2年生3回 | | | | |
| | ②-5 第2学年で課題研究発表会の実施。 | ②-5 課題研究発表会を実施。 | | | | |
| | ②-6 課題研究コンクールへの応募の督促。 | ②-6 督促し、プリントを2回配付。 | | | | |
| | ②-7 学力テストの講評を全学年で延べ11回配布。 | ②-7 学力テストの講評 11回配布 | | | | |
| | ③ 進路説明会の実施。（各学年1回） ・最難関大学進学希望者説明会の実施。 ・難関大学、医・歯・薬学部進学希望者説明会の実施。 | ③ 各学年1回（3年2回） ・3年1回実施 ・2年2回 ・1年1回 | | | | |
| | | | 学校関係者の意見 | | | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・SGHに伴っての多くの試みは評価できる。 ・いろいろな取り組みが積極的に行われていると思う。 ・新課程への取り組みが今後楽しみである。 ・生徒のために先生がよく努力されていることがわかる。 ・生徒一人一人のモチベーションを引き出すのがむずかしいと思う。 | | | |

4 生徒指導の充実

| 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | | 評価 | | | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|--|---|---|---|---|------|--|
| | 評価指標 | 生徒指導についてのアンケート | 評価指標による達成度 | 評定 | 総合評価 | |
| <p>① 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る</p> <p>② 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する</p> <p>③ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える</p> <p>④ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する</p> | ①-1 | 服装・頭髪が身につけている。 生徒 80%以上 教員 85%以上 | ①-1 服装・頭髪が守れている 生徒 90.2% 教員 95.0% | A | B | <p>自転車での登下校中の事故が多い。事故防止等の安全教育や自転車運転の安全の向上に努めると共に、事故が起きたときの対応の再確認を行う。また、駐輪場のマナーアップ運動・あいさつ運動を継続していきたい。携帯電話・スマートフォン・インターネットでのトラブルが心配される。生徒がいじめや犯罪の被害者・加害者にならないよう、保護者にも情報の提供や携帯電話の使用の提供やルールの依頼をすることが必要と思われる。</p> |
| | ①-2 | ルール・マナーを守っている。 生徒 85%以上 | ①-1 挨拶ができています 生徒 74.8% 教員 88.3% ①-2 生徒 84.4% | B B B | | |
| | ③ | いじめを未然に防止するため、積極的な取組を行っている。 | ③ いじめに関するアンケート・面接を実施した。 | A | | |
| | ④ | 組織的な生徒指導ができています。 教員・保護者 85%以上 | ④ 教員 90.0% 保護者 94.6% | A A | | |
| ①-1 | 生活委員・部活動生徒による登下校でのあいさつ・駐輪場のマナーアップ運動実施回数 年間3回 | ①-1 学期に1回あいさつ・駐輪場のマナーアップ運動を行った。 | A | <p>（所見） 服装・頭髪については、特に目立つ生徒もおらず、指導等も素直に聞き入れる態度がとれている。あいさつに関しては、登下校はもちろんだ廊下等でのあいさつも生徒からの声掛けが増えてきたように思う。登下校中の自転車事故の件数は多く、度々注意喚起しなければいけない。いじめに関しては、クラス分析会等で早期発見できる体制を継続していく。全校生徒にアンケートをおこない、生徒からの声を聞く機会をもうける。問題行動のあった者には、早期に対応し関係教員・保護者と連携を取り、全職員の共通理解を図った。</p> | | |
| ①-2 | 交通マナーアップ運動実施回数 年1回 | ①-2 5月と9月に徳島東署と連携し、驚の門前・本町交差点でマナーアップ運動を行った。 | A | | | |
| ② | 道徳教育のHR活動の回数 年2回 | ② 3学期に1回実施。 | B | | | |
| ③ | いじめに関するHR活動の回数 年2回 | ③ 携帯電話の正しい使い方のHR活動を1回行った。 | B | | | |
| ④ | クラス分析会の実施 年3回 | ④ 年間3回実施。 | A | | | |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | | | <p>学校関係者の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの取り組みの成果があらわれていると思う。さらに、根強く御指導願います。 ・事故後の対応、スマホのトラブルなど再認識できるように教育してほしい。 ・携帯・スマホについては、粘り強く指導してくれているので、今後も続けてほしい。 ・スマホに関する指導は2・3年も引き続き行うべき。どのくらいスマホを使っているのか調査してみるのは？ ・自転車のマナーがとても良くなった様に思う。雨の日等もきちんとマナーが守られているのが以前では考えられなかった。 ・交通事故についてのシミュレーションで対応方法を学ぶことも必要。 |
| ①-1 | ・各学年での服装・頭髪指導を充実させる。(年3回) ・生活委員・部活動生徒によるあいさつ運動・自転車駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施。 | ①-1 | ・各学年の生徒課員を中心に年間3回行った。 ・学期に1回あいさつ・駐輪場のマナーアップ運動を行った。 | | | |
| ①-2 | ・遅刻の多い生徒に対し、段階的な指導として担任・生徒指導課・学年主任・管理職による個別指導を行う。状況に応じて保護者を呼んで指導を行う。 ・交通マナーアップ運動・携帯電話のマナーについての講演などを通じて、全校生徒に社会のルールを守る事やマナー指導を行う。 | ①-2 | ・毎日の遅刻者を記録している。遅刻用紙記入後の生徒に直接指導し、多遅刻者は担任が保護者に電話や面談で協力を依頼した。 ・携帯電話のマナーについての講演を1回行っている。 | | | |
| ② | 道徳教育に関するHR活動を各学年で実施する。 | ② | ・3学期に1回実施。 | | | |
| ③ | いじめ防止等対策委員会を定期的開催し、生徒の状況等について情報交換を行うと共に、必要な対策等について協議を行う。 | ③ | クラス分析会等で話し合い、生徒の状況を学年団で把握している。 | | | |
| ④ | 様々な問題を抱えた生徒に対して、学年や部活動顧問及び生徒指導課等が連携し、多方面から生徒の家庭状況や心身の把握に努め、個々にあった適切な指導を模索し、効果的な指導に努める。 | ④ | 相談のあった生徒や気になる生徒に対しては、関係教員と連携を取り、個別に面談を行うなど、対応した。 | | | |

5 特別活動の推進

| 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | | 評価 | | | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|--|--|--|--|----|------|---|
| | 評価指標 | 特別活動についてのアンケート | 評価指標による達成度 | 評定 | 総合評価 | |
| ① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する | ① 生徒会活動が活発である。 （生徒・保護者・教員） | 80%以上 | ① 生徒 61.7% 教員 86.7% 保護者 83.3% | B | (評定) | 本校では部活動が活発に行われているが、活動部の数も多くの顧問教員数の不足等の理由により、課外活動の精選が喫緊の課題となっており、本年度は文化部において6つの部を2つに統合し活動してを、次年度は精選・工夫が重要と思われる。実施する3年ぶりに実施する清掃ボランティア活動では、今後、実施時期及び活動区域等の検討が必要である。 |
| | ② 部活動の入部率 | 80%以上 | ② 5月9日現在の入部率 87.5% (840/960名) | A | | |
| ② 部活動を充実させる | ③-1 募金活動などのボランティア活動に積極的に取り組む。 | 70%以上 | ③-1 生徒 64.8% 保護者 74.5% | B | B | 学校関係者の意見 |
| | ③-2 清掃ボランティア満足度 | 80%以上 | ③-2 アンケートでの肯定的意見 生徒(1年) 93.6% 生徒(2年) 94.2% | A | | |
| ③ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる | ③ 1・2年生全員による清掃ボランティア活動を年1回以上実施。 | | ③ 清掃ボランティア活動を12/9(火)に実施。 | A | | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の場を増やしてほしい。 文武両道の学校であるので、このままがんばってほしい。 部活動はよく頑張っていると思う。 体育部だけでなく、文化部の活動の活発化がみられるのがよい。 生徒の結びつきができる特別活動になっているように思う。 ボランティア活動+部活のような活動はないか。ex. ナーシングホーム訪問(コーラスなど) 部活の発表の場として、合唱部のランチタイムコンサート等、時間の有効な制約がある中で有効な時間の使い方をされていると思う。 ボランティアが評価されるようにしてほしい。 部活動ががんばっていると思う。 |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (所見) | | | |
| ① | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や学校行事への積極的参加 朝のあいさつ運動の実施 委員会活動の充実 | ① 各種委員会、生徒会研修会を実施した。学校祭では生徒会役員、各種委員で実行委員会をつくり運営に携わった。 | <p>(所見)</p> <p>生徒会活動については、本年度も計画どおりの活動を主体的に行うことができた。しかしアンケートでは、40%近くの生徒から活動が活発であったとの回答がなく、生徒会活動をさらに目に見えるかたちで発信していく必要があると思われる。部活動でも、文化部・運動部ともに活発に活動し、種々の大会において、数多くの部が上位の成績を収めることができた。ボランティア活動にも生徒会や部活単位で積極的に参加することができた。また、本年度は1・2年生全員による清掃ボランティア活動も実施することができ、生徒各々がボランティア活動に参加しての達成感を得ることができたこと共に、様々なボランティア活動への参加について考えるよい機会となったと思われる。</p> | | | |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> 部活動と学習面との両立を可能な範囲で図る。 下校時間の遵守 部活動の精選 | ② 試験期間中は部活動を制限し学習時間の確保に努めている。 ・平日午後8時完全下校を実施している。 ・部の整理・統合を継続検討中 | | | | |
| ③-1 | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への積極的参加について、生徒会執行部やJRCとの協力の中で実践する。 地域(施設や諸学校など)に根づいたボランティア活動の実践。(生徒会・Knowサークル・邦楽部・オーケストラ・合唱部・茶道部・華道部・外語部・体育部など) | ③-1 JRCと協力して災害義援金募金活動や歳末助け合い運動に参加した。 ・徳島マラソンのボランティアに参加した。(40名) -平成26年4月- ・徳島マラソンのボランティアに参加予定。(51名) -平成27年3月- | | | | |
| ③-2 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会や体育部による学校周辺の清掃活動の実施。 1・2年生全員による市内道路及び河川敷の清掃ボランティア活動を年1回以上実施。 | ③-2 体育部による朝の学校周辺清掃活動を実施している。 ・清掃ボランティア活動を12/9(火)に実施。 | | | | |

6 健康教育の推進

| 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | | 評価 | | | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|---|-------------|--|------------|---|--|---|
| | 評価指標 | 保健・教育相談のアンケート | 評価指標による達成度 | 評定 | 総合評価 | |
| ①正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る | ① | 保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 75%以上 | ① | 生徒 85.5% | A | <p>生徒の心身の健康問題は多様化している。個に応じた対応をするためには、校内の支援体制及び関係機関との連携の充実が必要と思われる。</p> <p>食育については、各教科、各課との連携を図り、生徒や保護者への啓発活動の充実を図る。</p> <p>教育活動全体を通し、世界の人々の健康と環境問題についての学習を促進する。</p> <p>本校生徒の特徴として精神的に追い込まれる生徒が多くなって、教員と生徒が違ってくる。生徒の精神的安定に大きく貢献して、今後も教育と必要不可欠であること考へる。そのため公的援助を強く希望したい。また、別室登校において学校での生徒の過ごし方や課題のあり方などが整備されていない部分がある。生徒への対応は柔軟でなければならぬが、基本の型は必要であると思われ、過去の事例を参考に作成し、共通理解を図りたい。</p> |
| | ② | 世界の健康と環境問題についての理解を深める。 70%以上 | ② | 生徒 82.9% | A | |
| ②学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する。 | ③ | 親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる。 75%以上 | ③ | 生徒 80.2% | A | |
| | ①-1 | 「保健だより」の発行 10回以上 | ①-1 | 「保健だより」の発行13回 | A | |
| ③一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る | ①-2 | 尿検査の提出率 100% | ①-2 | 尿検査の提出率 100% | A | |
| | ③ | 職員研修会の実施回数 年2回 | ③ | 2回実施。 | A | |
| ④教育相談活動の一層の充実を図る | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (所見) | | | |
| | ① | <ul style="list-style-type: none"> 「保健だより」の発行を年10回以上。 保健委員会での生徒の自主的活動の推進。 文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。 | ① | <ul style="list-style-type: none"> 「保健だより」の発行13回 保健委員によるシャボネット補充、アルコール消毒液の点検。 文化祭で「薬物の害」についての展示、生徒の感想文を掲示。 保健だよりや各教科で食育を実施した。 | <p>生徒の自己評価結果にあるように、保健室での対応については高い評価が得られている。</p> <p>尿検査は100%の提出率を達成することができた。保健委員は、定期的な活動とともに文化祭の展示等を行った。</p> <p>保健だよりや保健室前の掲示板、また各教科や課の取り組みにおいて、健康・環境問題への関心を高めることができた。</p> <p>本年度は2学年に身心に問題を抱えた生徒が多く出たが、教育相談を受けた生徒について、カウンセラーと教員との連携により重症化を防ぐことができた。</p> <p>また、問題を抱えた生徒の早期発見・対応については、学年会での情報交換や日常的な情報交換などがスムーズに行われており、協力体制を取りやすい状況であった。</p> | |
| ④教育相談活動の一層の充実を図る | ② | <ul style="list-style-type: none"> 各教科・各課と連携し、世界の人々の健康と環境問題解決への啓発を図る。 WHO等の国際機関での研修の実施。 | ② | <ul style="list-style-type: none"> 世界の人々の健康や環境問題について教科や課で取り組んだ。 9月19日1年生のクエストでWHO（神戸センター）訪問。 | <p>生徒の自己評価結果にあるように、保健室での対応については高い評価が得られている。</p> <p>尿検査は100%の提出率を達成することができた。保健委員は、定期的な活動とともに文化祭の展示等を行った。</p> <p>保健だよりや保健室前の掲示板、また各教科や課の取り組みにおいて、健康・環境問題への関心を高めることができた。</p> <p>本年度は2学年に身心に問題を抱えた生徒が多く出たが、教育相談を受けた生徒について、カウンセラーと教員との連携により重症化を防ぐことができた。</p> <p>また、問題を抱えた生徒の早期発見・対応については、学年会での情報交換や日常的な情報交換などがスムーズに行われており、協力体制を取りやすい状況であった。</p> | |
| | ③ | 特別支援教育に関する職員研修会を1学期、2学期にそれぞれ1回実施する。 | ③ | 5.16（金）、10.14（火）の2回校内職員研修を実施した。 | | |
| | ④-1 | 各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的実施し、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。 | ④-1 | 学年会にあわせて1学期に2回実施。 | | |
| | ④-2 | カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動の充実。 | ④-2 | 1学期の教育相談の利用状況（H26.4.1~H27.1.23） ・開室日数：25日 ・利用回数 1年：3回 2年：64回 3年：15回 | | |
| 学校関係者の意見 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーの存在はとても重要。確保するために色々な方法を考へてほしい。 不登校を減らすには養護教諭の役割も大変重要だと思ふ。 食育・健康教育は大切だと思ふ。 | | | | | | |

7 環境教育・安全教育の推進

| 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | | 評価 | | | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|---|---|--|---|--|---|-----------------|
| | 評価指標 | 環境教育に関するアンケート | 評価指標による達成度 | 評定 | 総合評価 | |
| ① 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る ② 校内外の環境美化活動を推進する ③ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する | ① 環境美化活動に積極的に取り組んでいる。 80%以上 ② 清掃活動に熱心に取り組み、美しい環境を保つよう心掛けている。 80%以上 | ① 生徒 74.7% ② 生徒 77.5% | B B | A | 環境面では、環境美化や清掃活動には、環境美化に取り組んでいるが、まだ意図十分と考える。次年度では、生徒たちの主体的に活動していきたい。意識の高けに学校全体として工夫していきたい。防災面では、地震・津波についての訓練を、より実践的な設定に変更して実施することができた。次年度も、さらに工夫を重ねていきたい。また避難ビルとしての体制も、整備していきたい。防災クラブのメンバーは、今年度も意欲的に活動し、防災の啓発に大いに貢献することができた。しかし、この活動を毎年継続させていくことはたいへん難しいと実感する。積極的に活動する生徒をいかに育てるかが毎年の課題である。 | |
| | ② 環境委員による清掃奉仕活動（放課後）を年間5回以上実施する。 ③-1 避難訓練を年2回実施する。 ③-2 心肺蘇生法の講習会を実施する。 | ② 環境委員による清掃奉仕活動を12月までに6回実施(4/30, 5/10, 6/20, 9/30, 10/10, 11/20)。 ③-1 地震津波避難訓練実施(7/15) 火災避難訓練実施(10/14) ③-2 1年生対象心肺蘇生法講習実施。(6/18) 教職員対象心肺蘇生法講習実施。(6/18) | A A A | | | |
| | 活動計画 ① ・節電・節水の呼びかけ ・環境問題に関する記事の掲示 ② ・毎日の清掃を徹底 ・環境委員による校内や学校周辺の清掃奉仕活動の実施 ③-1 防災訓練の実施及び避難経路の確認 ③-2 職員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回実施 ③-3 「防災クラブ」の活動を推進 | 活動計画の実施状況 ① 節電・節水の呼びかけのために、電気・水道使用量をグラフ化し、掲示する予定。 ② 毎月10日20日30日はゴミ0の日として、できるだけゴミを少なくする呼びかけを行い、12月までに6回、環境委員の清掃活動を放課後に実施。 ③-1 防災訓練2回実施（地震・津波1回、火災1回）その他Jアラートの訓練実施 ③-2 それぞれ1回ずつ実施 ③-3 防災クラブの活動として、校外防災イベントへの参加、文化祭での防災シミュレーションによる生徒・一般の方への啓発、ガラス飛散防止フィルムの貼付などを実施。 | (所見) 環境面では、「新学校版環境ISO」認定校として、具体的行動目標を定めて取り組んだ。取り組みのひとつひとつは小さなことだがそれを重ねることにより、生徒・職員の環境に対する意識を高めることができた。 防災面では、避難訓練やJアラートの訓練を利用して防災意識を高めることができた。訓練をより実践的なものに改善して実施することができた。 防災クラブの活動は生徒や職員の防災意識を高めることに貢献した。クラブ員は地域の防災イベントにも参加し、将来、地域の防災に関するリーダーとして期待される。 | 学校関係者の意見 ・地震・津波・AEDの対策はしっかりしてほしい。 ・ぜひとも予告なしの避難訓練をやってみてほしい。どんな時でも対応できる生徒を育ててほしい。 ・防災マップ作りはすばらしい。 ・避難器具の点検等もしてほしい。 | | |

9 グローバル人材の育成

| 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | 評価 | | | 次年度への課題と今後の改善方策 | | |
|---|--|---|---|----------------------|---|------|--|
| | <table border="1"> <tr> <th data-bbox="432 212 555 244">評価指標</th> <td data-bbox="555 212 1021 252">グローバル人材の育成についてのアンケート</td> </tr> </table> | 評価指標 | グローバル人材の育成についてのアンケート | 評価指標による達成度 | 評定 | 総合評価 | |
| 評価指標 | グローバル人材の育成についてのアンケート | | | | | | |
| <p>① 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る</p> <p>② 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る</p> | <p>①② 国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる。（生徒・保護者・教員） 90%以上</p> <hr/> <p>①-1 姉妹校交流の活動記録展示回数 2回 ①-2 姉妹校交流開始までに1, 2年生の全クラスで異文化理解学習を実施する。各クラス1回参加人数15名</p> <p>②-1 国際教育振興弁論大会等の生徒参加回数10名 ②-2 国際教育振興弁論大会等の生徒入賞者数7名 ②-3 国際理解教育に関する諸行事の参加回数5回 ②-4 海外研修・海外留学に参加する生徒数40名</p> | <p>①② 生徒 90.0% 保護者 90.3% 教員 100.0%</p> <hr/> <p>①-1 2回展示。 ①-2 9月22日～26日異文化交流のためのワークショップを1, 2年生の全クラスで実施。 ②-1 9名が出場。 ②-2 7名が入賞。 ②-3 7回参加。 ②-4 61名。 (内姉妹校交流でフランスを訪問する生徒は24名)</p> | <p>A A A</p> <hr/> <p>A A</p> <hr/> <p>B B</p> <hr/> <p>A A</p> | <p>(評定)</p> <p>A</p> | <p>SGH事業も2年目となり、さらに充実した内容の取り組みを求められ、今年度以上に生徒が行事に熱心に参加できるように奨励したい。来年度、姉妹校交流は今年度の交流のついでに、今年度の交流の成果を再来年度へつなげる方策が必要である。これまで通りに、記録集を発行したり、パネル展示を示えたりするパネリストを、ホストファミリーの生徒・派遣生徒・外語部の生徒等を中心にサルのセトリを継続し、校内でもその様子を広報したい。また、来年度は大塚製菓インターンシップ研修を計画している。国際教育振興弁論大会への参加については、市内の大会に限らず、県外の大会等も案内したい。</p> | | |
| | <table border="1"> <tr> <th data-bbox="432 675 555 707">活動計画</th> <td data-bbox="555 675 1021 715"></td> </tr> </table> | 活動計画 | | 活動計画の実施状況 | (所見) | | |
| 活動計画 | | | | | | | |
| | <p>①-1 文化祭などでサン・ジョセフ校との交流の展示をする。</p> <p>①-2 英語の授業を中心に姉妹校交流に向けてフランスへの理解を深めたり、日本のことをより深く学ぶような異文化理解の授業を実施する。</p> <p>②-1 カレント・イングリッシュやコミュニケーション英語の授業を中心に身近な話題や関心のあることについてスピーチをしたり、英文を書く練習をしながらコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力に自信を持たせる。その上で、「国際教育振興弁論大会」等への参加を奨励するとともに、参加生徒へきめ細かな指導をする。</p> <p>②-3 ・JICA「高校生国際教育体験プログラム」への参加を奨励する。 ・地元大学や国際交流協会等と連携して留学生や海外大学生他、外国人との交流を図る。</p> <p>②-4 ・第8回姉妹校交流の受入(10月)、派遣(3月) ・サン・ジョセフ校の生徒とのテーマ別ディスカッションの実施。 ・ル・アーヴル市庁舎等での取材活動の実施。 ・海外研修・海外留学への参加を奨励する。</p> | <p>①-1 1学期と文化祭に受け入れについて展示。</p> <p>①-2 英語とHRの時間を使って徳島大学の先生による異文化交流のためのワークショップを実施。</p> <p>②-1 ティームティーチングの授業でスピーチやプレゼンテーションをする機会を作っている。英語弁論大会に2名、文理大学主催の暗唱コンテストに2名、国際教育振興弁論大会に5名出場。</p> <p>②-3 ・マレーシア人大学生、アメリカ人高校生との交流。 ・Tokushima 英語村への参加。そのスタッフとの交流会。 ・TOPIAの日本語教室にボランティアで参加。 ・徳島大学のサマースクールに参加。 ・JICA「高校生国際教育体験プログラム」に参加。</p> <p>②-4 姉妹校交流を実施予定。</p> | <p>国際教育に関する行事や講演が数多く実施されるなか、何が「グローバル社会」で生きていくのよき機会となり、どのように変わっていき、生徒の意識も変わっていくように思う。本校で実施されたTokushima英語村スタッフとの交流会は多くの生徒が参加し、盛況であった。その他の行事へも熱心に参加する生徒が多かった。また、姉妹校交流に関しても、今年度はホストファミリーを全員本校生のお家でお願いすることができた。派遣に関しては、46名の生徒が応募し、選考に苦労した。</p> | | <p>学校関係者の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格試験の全員挑戦は良い。 ・デパート、異文化理解は積極的にしてほしい。 ・SGH事業の今後が楽しみである。 ・講演が多い感じ。体験型も増やした方がいいかもしれない。 ・5人の生徒さんが良く準備をし、発表されていたと思います。 ・各生徒が楽しんで参加し、人生を考える力となればと思う。 ・いろいろな取り組みをしているのが素晴らしい。 | | |

10 開かれた学校づくりの推進

| 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | | 評価 | | | 次年度への課題と今後の改善方策 | |
|-----------------------------|-------------|--|------------|--|--|---|---|
| | 評価指標 | 開かれた学校づくりについてのアンケート | 評価指標による達成度 | 評定 | 総合評価 | | |
| ①教育活動の積極的な公開を推進する | ① | 教育活動の公開が学校の理解に役立っている（保護者） 90%以上 | ① | 保護者 92.4% | A | 授業公開については、平日実施の第3回の参加者が少ない。実施回数・方法の再検討やSGH事業の公開等も含めて改善する必要がある。 | |
| | ② | ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立っている（利用の保護者対象） 85%以上 | ② | 保護者 84.0% | | | B |
| ②ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する | ----- | | ----- | | | 保護者については、アンケート回答者数667名中128名の方がホームページを見たことがなかった。入学式やPTA総会、進路説明会などあらゆる機会を通じて広報に努め、利用促進を図っていく。 | |
| ③地域社会、PTA、同窓会との連携を図る | ① | 授業公開を年3回実施 参加者数（合計） 800名以上 | ① | 5月、6月、11月の3回実施 参加者合計 884名 | A | | 中学生体験入学については、暑い時期の実施であるため、受付後の説明時間を短縮し、中学生への身体的負担を減らす必要がある。実施計画の再検討を図る。 |
| | | 中学生体験入学の参加者数 中学生 800名以上 保護者・教員 150名以上 | | 中学生体験入学(8月5日実施) 参加中学生 723名 参加保護者・教員 202名 | B A | | |
| | ② | ホームページの更新回数 年100回以上 | ② | 107回更新(1/15現在) | A | | |
| | ③-1 | 学校支援協議会の開催回数 年2回 | ③-1 | 年2回実施 | A | | |
| | ③-2 | 学校説明会の回数 年3回 | ③-2 | 年3回実施 | A | | |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (所見) | | | 学校関係者の意見 | |
| | ① | ・授業公開を実施する。中学校、大学、学校評議員、保護者等への案内を徹底する。 ・中学生体験入学の実施については体験授業、体験入部の内容や方法等について事前に十分検討する。 | ① | ・第1回(5月10日(土)実施) 621名来校 ・第2回(6月28日(土)実施) 208名来校 ・第3回(11月7日(金)実施) 55名来校 ・体験入学アンケート 体験授業参加中学生の87%が興味を持てた。体験入部参加中学生の82%が良かった。 | ホームページについては、SGH校に指定されたこともあり、更新回数が増え、内容の充実も図れた。一部ではあるが、英語版のホームページも作成した。アンケート結果の%だけを見ると目標を達成できているが、約2割の保護者がホームページを見たことがなかった。保護者に利用を呼び掛けたい。 | | |
| | ② | ホームページをリニューアルし、内容の速やかな更新に努める。 | ② | 従来の広報に加え、SGHの取組についても積極的に更新 | 中学生、保護者対象の学校説明会については、説明時間が長く、質疑の時間が十分とは言えない。終了後に個別に質問される方もいるので、質疑の時間・実施方法を工夫したい。 | | |
| | ③-1 | 学校支援協議会を6月と3月にそれぞれ1回開催する。 | ③-1 | 第1回 6月28日実施 第2回 2月26日実施 | 中学生体験入学については、授業開始までの暑さ対策、時間短縮等を検討したい。 | | |
| | ③-2 | 中学生及び保護者対象の説明会を開催する。日程や中学校への案内を工夫する。 | ③-2 | 第1回9月20日(土)77名来校(中学生24名・保護者53名) 第2回10月1日(水)17名来校(中学生4名・保護者13名) 第3回10月26日(日)106名来校(中学生44名・保護者62名) | 中学生体験入学については、授業開始までの暑さ対策、時間短縮等を検討したい。 | | |
| | | | | | オープンスクールで1000名超の方の訪問があり、城東高校への関心が高まっていることがわかる。 ・ホームページはよく更新できているので評価できる。 ・ホームページの充実は不可欠な時代となってきたと思う。学校の広報として有効だと思う。 ・入学して初めて知るのはではなく、体験入学を経ての入学は生徒にとっても心強いと思う。 ・ホームページの更新はなかなかできないと思うのに、1年間で100回以上の更新はすばらしい。 | | |

11 教職員の資質向上

| 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | | 評価 | | | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|-----------------------|--|-----------------|---|--|------|---|
| | 評価指標 | 職員の仕事についてのアンケート | 評価指標による達成度 | 評定 | 総合評価 | |
| ①校務運営体制の効率化と充実を図る | ① 教員の職務の満足度 | 90%以上 | ① 100.0% | A | (評定) | S G Hの取組については教職員の負担増となるが、生徒の成長が達成感として感じられるよう、職員の共通理解を深める。アンケートについては、「ややあてはまる」を「よくあてはまる」に改善できるような取組を続ける。危機管理については、個人情報取り扱いなど継続的な注意喚起に努める。研究授業、授業力向上研修については、「分かりやすい授業」の実施に向けてさらに研修に努める。 |
| | ②-1 コンプライアンスに対する自己評価 | 90%以上 | ②-1 100.0% | A | | |
| ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る | ②-2 危機管理に対する取り組み | 90%以上 | ②-2 95.0% | A | B | |
| | ②-1 情報セキュリティポリシーについての研修会の回数 | 年2回実施 | ②-1 5月16日実施。12月実施(e-ラーニング) | A | | |
| ③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る | ③-1 校内での研究授業・授業研究会参加人数 | 50名以上 | ③-1 延べ60名 | A | C | |
| | ③-2 校外での授業力向上研修参加人数 | 10名以上 | ③-2 4名が参加 | C | | |
| | 活動計画 | | 活動計画の実施状況 | (所見) 「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせたため、アンケート結果は全て95%以上と非常に良い結果である。ただし、各項目とも「ややあてはまる」と回答した職員が3割程度いる状況ではない。 校内での研究授業ではICTを活用した授業に挑戦した教員が多く成果もあった。今後とも充実を図りたい。 校外の研修については参加者が少なかったが、計6名の教員がS G H先進校への視察を行い、全職員に対して報告を行った。 | | |
| | ①-1 校内組織の活性化を図るため、学年主任等を中心とした月例連絡会をもつ。 | | ①-1 月例連絡会を毎月実施 課題と対応について協議 | | | |
| | ①-2 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する。 | | ①-2 共有ホルダーの活用を進めているが、不要ファイルの整理が必要 | | | |
| | ② 「情報セキュリティポリシー」を確実に実行できるように徹底する。 | | ② 情報資産持ち出し管理シートの返却日記入が徹底していない。 | | | |
| | ③-1 計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に配置する。 | | ③-1 11月11日視聴覚教育研究大会、11月21日県教委計画訪問及び授業力向上研修において研究授業を実施 | | | |
| | ③-2 予備校等の授業力向上研修に参加する。 | | ③-2 理科1名、国語1名、英語2名が参加 | | | |
| | | | | 学校関係者の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・新課程への取り組み等、先生方には自信を持って指導してほしい。 ・研究授業は教育資質向上にとって大切。なぜ参加人数が増えていないか分析して障害をとる努力をすべき。 ・先生方はとても努力されていると感じる。特にS G Hの取組は大変だと思う。評価をBにしているのは辛口だと思う。 ・生徒にとって安心して相談ができる教職員であって欲しい。 ・良くやっていると思う。 | | |